

木は1年に1回実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年、実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。

■■■ 3-5年で資金3倍化を目指して ■■■ 現在の相場状況と投資スタンス

出島 昇

まず、念頭に入れておく必要があるのは、日経平均の値動きだけをみて投資を考えてはダメだということです。今回の大不況のスタートはアメリカのサブプライム問題ですから、NYダウの動きにまず注目する必要があります。そこでチャートをみるとNYダウは11/20に7552ドル(ザラ場安値7464ドル)をつけて反発し、その後は8000ドルを割ることなく、当面8000ドルは強力な下値抵抗ラインとなりつつあります。7500ドル~9600ドルの大きなボックス圏の中で、8000ドル~9500ドルの上限のボックスを形成しているようにみえます。そうであれば最大で9500ドルを試してしまえば、下限の8000ドルを試す動きとなってきますので、もし戻りを試していく場合NYダウの9200ドル台ぐらからは要注意といえるかもしれません。同じように日経平均も7000円~9500円大きなボックス圏の中で8000円~9200円ぐらいのボックスを形成しているといえます。柴田野線を見ると分かりやすいですが、下値は10/28の6994円、11/21の7406円、12/4の7849円と今のところ切り上がっており、12/11の8720円を終値でぬけてくると8860円にフシがあり、ここをぬけると9000円→9200円となってきます。

目先は日経平均は上昇しても8900円もしくは9200円ぐらいが想定されますので、12/4(木)発送の低位株を買いポイント①で買った人で少しでも利益をとりたい人は、利食って再び安くなるのを待つということでしょう、しかし、買った安値まで下げないこともありますので、自分の投資の考え次第となります。現在は大きなボックス相場であり、上限を試せば下限を試す動きとなりますので、買いそこなった人は、上値を追って買ってはいけません。まだ、買いポイント①、②にくる可能性は十分にありますので、じっくり待って少しずつ買い下がる気持ちが大切です。現在は、ほとんどの株価が中途半端な戻りとなっていますので、下げを待つスタンスになります。

業種	コード 銘柄	規模	配当	PBR	バブル後 最安値	日経平均6994円 10/28前後の 安値	買ポイント	
鉄鋼	5479 日本金属 工業	小型	有	0.5	2002年11/19 42円	12/4 98円	①98円~ 110円前後 ②70円~80円 ③60円前後	ステンレス国内 大手。自動車車 体の強度を保つ ためのステンレ ス金属を開発

-*-*-* 柴田豊秋先生の柴田罫線「諺」108話集のスタートにあたって *-*-*-

柴田秋豊氏(豊秋先生の父親)の柴田罫線とは1950年代にのべ約5000件分に相当する罫線を手書きで引き、統計・分析を加えることによって開発した日本独自のテクニカル分析手法の1つといえます。投資家個人の恣意的な判断をすべて排除し、罫線が描き出す形のみに注目して、機械的に売買を実行するというものです。現在はネット時代となって様々な手法がありますが、江戸時代米相場から始まる罫線の流れに位置するオリジナルなチャートであり、相場が人間の欲と恐怖の戦いならば、柴田罫線はそれを写し出すチャートといえます。この柴田罫線の継承者である柴田豊秋(現在75才)の先月書き上げた「諺」を相場の真実として伝えたいと思います。今回はその「諺」108話集を残すにいたったその思いを豊秋氏のそのままの文章でお伝えします。今後「諺」とともに私(出島昇)が解説を加えたりしたいとも考えています。

～ 柴田罫線「諺」108話集への思い ～

思い起こせば十九才より父に弟子入りし罫線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にと思い老骨に鞭打ち打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。

親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし史料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思ひ立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教えを受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後罫線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。

確かに父が研究し編み出した罫線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み罫線の復興に取り組んだが北海道の罫線屋一と揶揄され軽視されました。今日では罫線は「チャート」と呼ばれているが私は罫線と云う単語に愛着があり今後も罫線という文章一本で表現したいと思っております。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあったが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っております感謝しております。

普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書き

つづけ死が来る迄、研究、野線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの一助となればとの思いから野線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智恵の結晶だと思っている。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。

私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出動に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。

比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田野線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思い信じている。

投機、投資家は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

豊秋

----- 長崎新聞(日曜版) 出島昇の経済コラムより -----

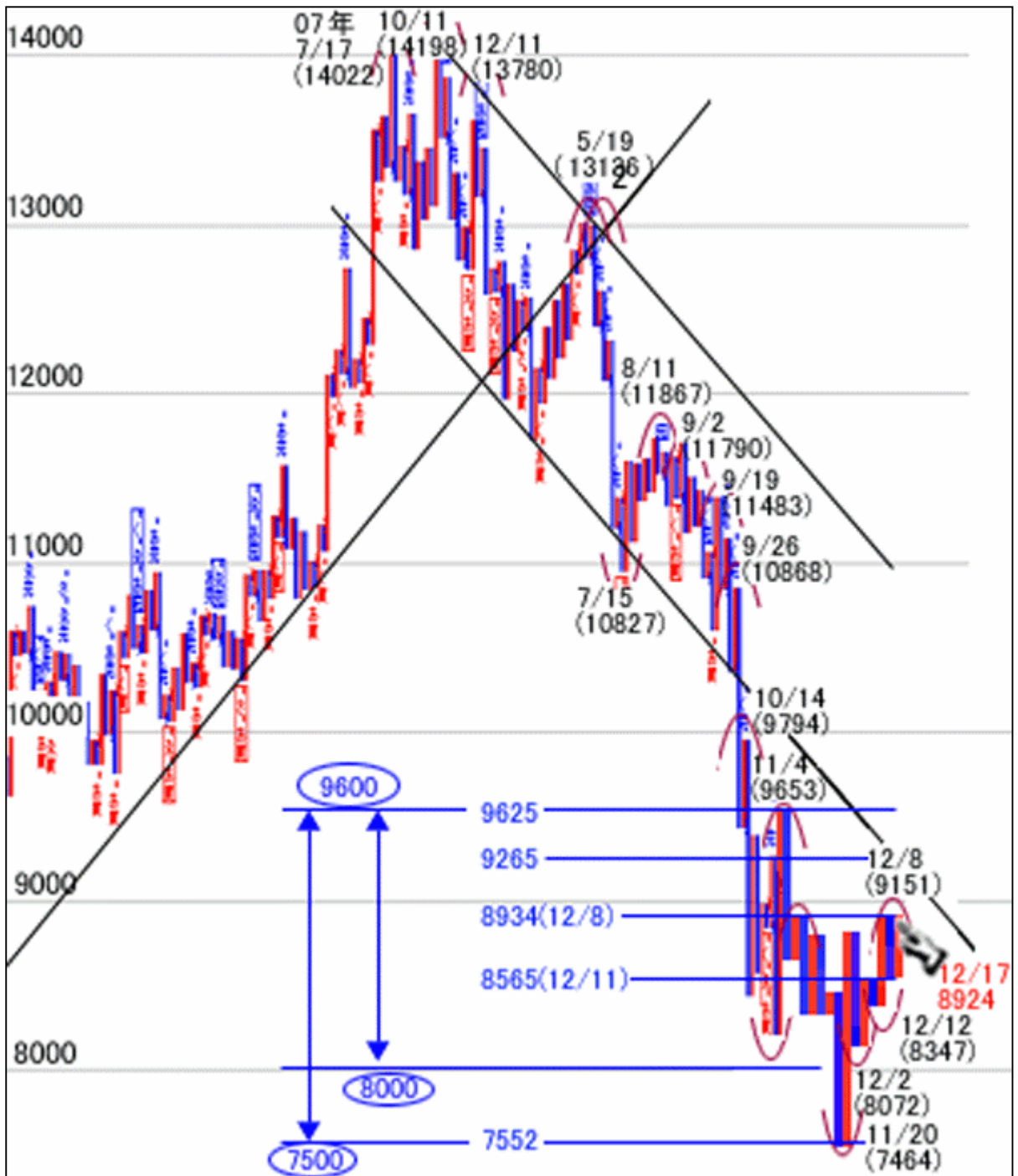
<<< 総悲観の時にこそ、買いの種をまこう >>>

80年に1回の大不況はさらに深刻さを増し、100年に1回の大不況とまで言われてきています。アメリカのサブプライム問題から世界中に不況が波及し、そのアメリカではGMを始めとするクライスラー、フォードの大手自動車3社(ビッグ3)が倒産寸前であり、政府に税金による救済を求めています。しかし、これらのビッグ3は、税金を投入しても一時的なものではなく、際限なく税金をつぎ込まなければならないと言われています。それは、トヨタなど日本の自動車メーカーは、環境問題に対応するためにハイブリッドカーなどの省エネルギーの開発に力を注いで優秀な車を作ってきました。しかし、アメリカの自動車会社は石油をガブ飲みするような大型車を作り、アメリカ人はそれを乗り回し、経営者や労働者は多くの報酬や賃金を受け取ってきました。その絶頂期にサブプライム問題が起きて、経費がかかるアメリカの車は売れなくなったのです。

一時的にビッグ3を助けても、省力・低燃費の車を開発するには何年もかかるため税金を投入し続けなければなりません。そのため、一部の経済学者や議員からは倒産させるべきだという意見もありますが、そうすると自動車関連で300万人の労働者が失業となり、世界経済はさらにひどい状況となっていきます。これをどうするかが1月20日誕生のオバマ新大統領につきつけられる問題となります。

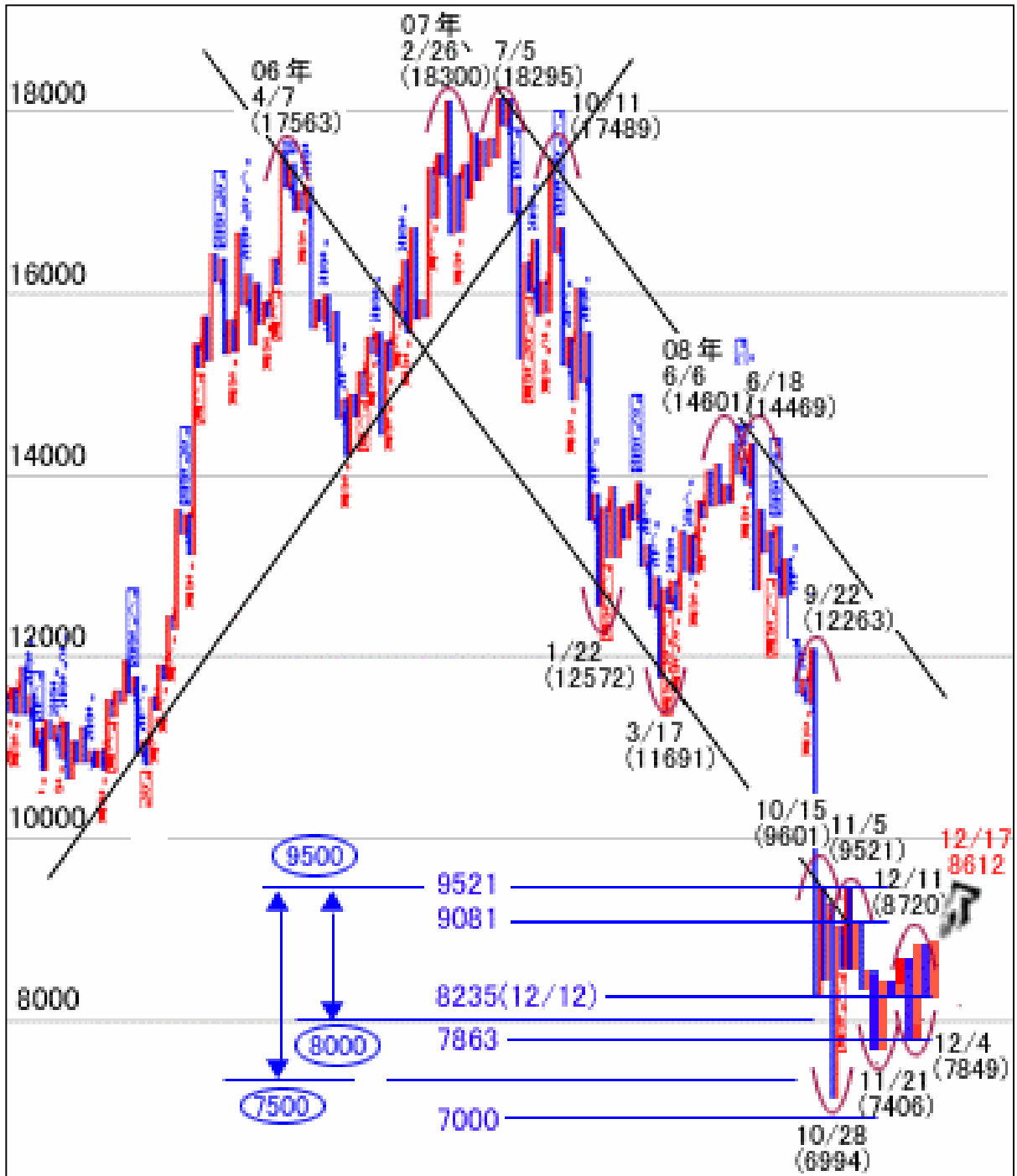
本来ならばアメリカの自動車大手3社がボロボロですので、日本のトヨタは実力とともに実質世界のNo.1となったのですが、そのトヨタが赤字に転落し、リストラを実行しています。その原因は世界同時

NYダウ



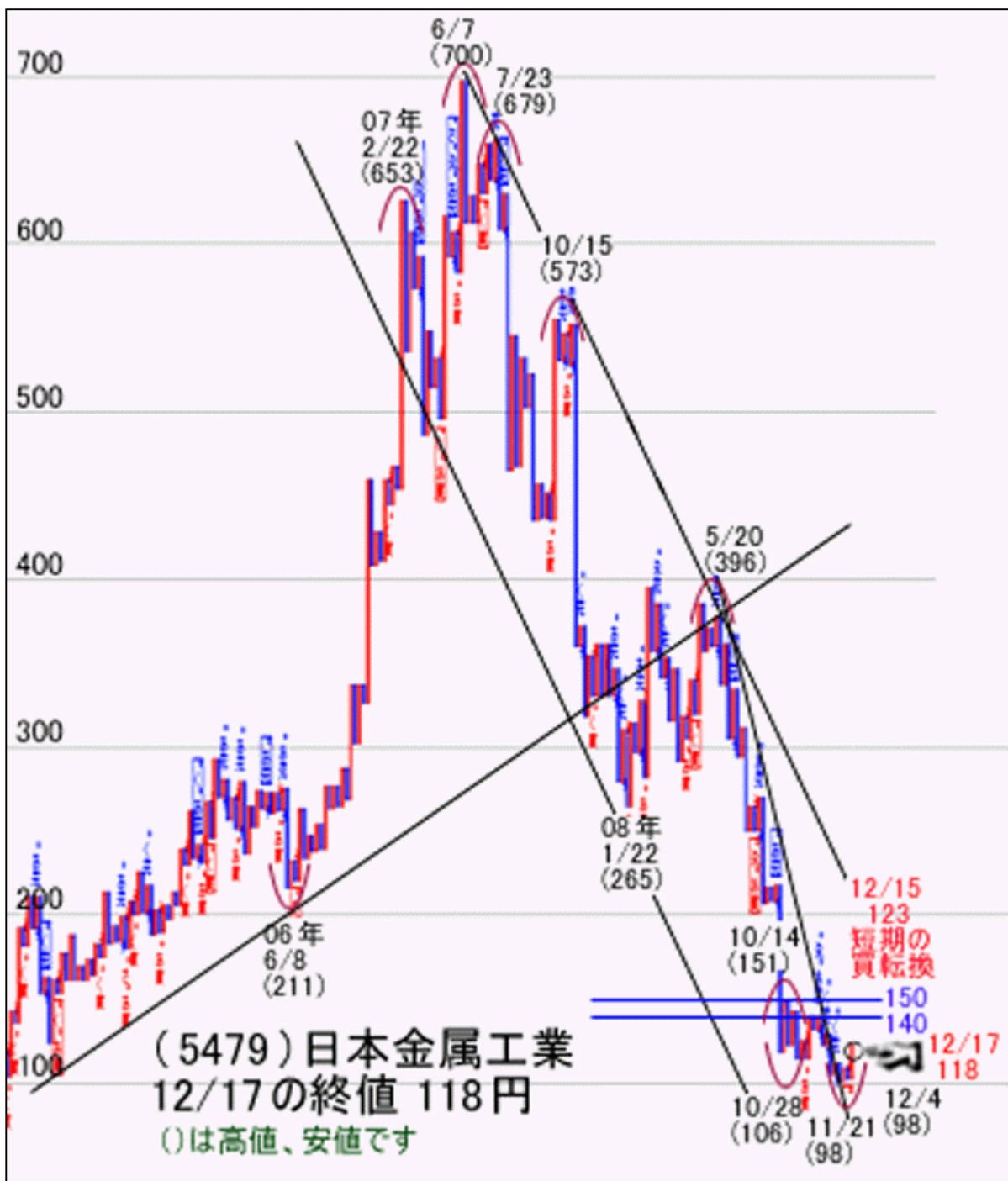
大きくは、7500 ドル～9600 ドルのボックス圏であり、この中で現在 8000 ドル～9387 ドルの短期のボックス圏を形成しています。12/8 に 9151 ドルまであつて、その後は 9000 ドルをぬけない動きとなっています。12/8 の 9151 ドルをぬけると 9300 ドル台を試す動きが想定されますが、そこは目先のピークとなります。

日経平均



大きくは、7500円～9500円のボックス圏の動きであり、この中で現在は8000円～9100円ぐらいの短期のボックス相場を形成しています。NYダウが9300ドルを試すような動きになれば9100円水準までは期待できます。現在、急激な悪材料(円高や大量の失業者)がでていながらもかかわらず、日経平均がしっかりしているのは12/18、12/19での日銀の金融政策決定会合で、利下げや量的金融緩和の期待もあつてのことですので、期待通りであれば9000円台にのせたあと材料出尽くしとなる可能性があります。

(5479) 日本金属工業



昨年の 2/22 の 653 円、6/7 の 700 円、7/23 の 679 円の三尊天井を形成して下降トレンド入りとなりました。この下降トレンドの中で赤字転落となり 10/28 に 106 円、11/21 と 12/4 に 98 円をつけて目先は 5/20 の 396 円からの下降トレンド(B)を上にぬけて 12/15 に 123 円で短期の買転換となっています。目先は 140 円～150 円が上値抵抗ゾーンとなります。短期の売買の人は 96 円を終値で切った場合に損切り前提に 98 円～110 円前後で買って、140 円接近で利食いということになります。長期投資の人は 98 円～110 円前後が 1 回目、2 回目は 70 円～80 円、3 回目は 60 円前後となります。11/28 付の日経産業新聞で車体の強度を保つための「骨格部品」に利用できるステンレス鋼を開発したと伝えられ今後自動車の安全性や軽量化を後押しすると評価されています。今は自動車関連が全滅状態ですが一段落すれば、好材料として見直されると思われます。